

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201801		
法人名	有限会社 RAIMU		
事業所名	グループホーム 来夢	ユニット名	1
所在地	長崎県佐世保市日野町738		
自己評価作成日	平成30年5月2日	評価結果市町村受理日	平成30年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ2F		
訪問調査日	平成30年5月31日	評価確定日	平成30年6月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「らしく いきよう むげんに」を念頭に、入居者様一人ひとりが自分らしく生活して頂けるよう支援をしています。特に今年度から、個別支援に拘りを持ち、調理、洗濯、掃除等一人ひとりが持たれている力を存分に発揮していただける場面作りにも力を入れています。入居者様の充実された表情や達成感に溢れた表情が職員の励みです。入居者様と職員は仲が良く毎日笑いが絶えないホームです。犬もフロア内において、入居者様を癒してくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム来夢”は佐世保市日野町にあり、周囲に新興住宅も増えている。ホームは1階にあり、天気の良い日はホームの庭で外気浴やお茶会をされたり、職員と散歩や買い物、ドライブなどを楽しまれている。30年1月1日から副施設長が管理者に就任し、ホーム長や全職員の個性や背景を大切にしながら、「入居者優先」「入居者本位」の業務改善を続けてこられた。代表(社長)と共に、日々のケアのレベルアップポイントを集約し、職員全員の頑張りや職員同士の支え合いを評価しながらも、ホーム名である「来夢(らいむ)」に込められた意味「らしく」には“ご本人らしく”、「いきよう」には“命・生き生き”、「むげんに」には“継続して”の振り返りを続けている。今後も入居者個々の「有する能力」「できそうなこと」「日々の成果」「要望」等を丁寧に記録すると共に、職員全員でケアプランの共有を図っていく予定である。職員主体の勉強会も毎月実施しており、“人(命)”を大切に思う代表の下で職員が結束し、更なる「研究思考」を深めていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活、利用者本位のケアに心掛けている。また安心して生活ができるように、気を使われないように、察しての声掛け・対応するよう配慮している。	長く勤務している職員も多い。副施設長(新管理者)も同系列のホームからの異動であり、代表の想いを理解し、理念の実践のために職員と情報交換を続けてこられた。入居者の役割や楽しみを増やすように努めており、今後も全職員で入居者の有する能力を共有していく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ足りないと感じる。地域と入居者との架け橋は足りないと感じる。可能にするきっかけが少ない。	隣町の特別支援学級の子も達との交流が行われている。日野小学校の生徒も年2回ホームに来て下さり、クイズや歌を楽しまれ、小学生から感想文を頂いたり、散歩の時に挨拶をして下さっている。社長が地域の草取りに参加したり、地域の方々との相談に応じている。	今後は町内会のごみ清掃や地域行事に参加したり、小学校の通学路で行われている“あいさつ運動”などの参加方法を検討予定である。以前行っていた家族との納涼祭も再開し、地域の方をご招待できればと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌やホームページで発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際にホームの近況を伝えられている。今のところ、地域に参加するような行事等はないが今後は積極的に参加したいと考えている	入居者の状況報告や外出行事、研修報告などと共に、事故報告も行われ、参加者の方々からアドバイスを頂いている。民生委員も2人参加して下さり、日野地区の会合情報を頂き、今後参加予定にしている。今後は町内会の取り組み等を伺っていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自身が分からないこと、迷うことは市の職員に相談しわからないままにしないように心がけている。	共用型デイサービス等の相談をした時も、市の職員の方が必要提出書類などを丁寧に指導して下さいました。地域包括の職員からも入居の紹介があり、情報交換を続けている。代表は認知症介護指導者として長崎県下の地域包括会議に参加し、地域や地域力、町作りのアドバイスをしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯も兼ねて夜間の玄関施錠はしている。身体拘束委員会の発足。勉強会を通してケアの改善実践をしている。	代表が佐世保市の虐待防止委員である。法人内でも身体拘束(虐待)の内部研修を毎年行い、30年度は委員会も作られた。スピーチロック等の振り返りを行うと共に、30年1月から自己評価も始めている。今後は入居者個々の行動分析を行い、解決策の検討を続けていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会にて、学びを重ねている。しない・見過ごさない環境づくりに努めている。また、入浴時やトイレ時に皮膚観察を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度利用の為に、裁判所に通われる入居者様がいらっしゃる。その際に職員へ制度の説明、進捗状況の説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定の際はご家族に十分な説明を行い、不安なく入居をして頂けるようにしている。入居や退去を急かすことなく、ご家族、入居者様のペースに合わせている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声を職員や家族へ伝えたり、新聞等を利用し機会が得られるよう努めている。面会時の家族との交流にも耳を傾けている。	家族に通信を郵送しており、職員が日頃の暮らしぶり等を手書きしている。面会時や電話で近況報告をしているが、今後は更に家族の不安などを伺うと共に、29年度は家族会ができていないため、家族の希望等も伺いながら、家族同士が集う機会を検討していく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の声によく耳を傾け、様々な場面で反映されていると感じる。	管理者やホーム長が職員個々の要望を傾聴している。日々の業務(調理や買物、外出等)の話し合いも行われ、業務内容の意見交換を続けている。今までのルールを適宜見直し、「入浴日を固定しない」など、“入居者優先”を大切に、業務改善に取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	女性活躍応援宣言事業所登録済。有給休暇やシフト調整等協力的で働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTでの教育システムを導入・実践。及び、法人勉強会の質の改善。社外研修会や実践者研修等への参加促しと協力。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の参加や各種勉強会への参加を促し、交流を図っている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	挨拶から始め、自ら話せるように適度な距離感を意識し接している。お声があれば、しっかり傾聴し、質問や不安事に対しては、チームで対応ができるように情報共有を行い、本人への回答や返答も必ず行うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	挨拶や心配り・配慮の徹底。「人として」を重きと捉え、誠実であるように努めている。不安事・心配事等は必ず経過や結果報告を徹底している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事故や怪我がないように、安心して頂けるような実績作りに努めている。また、小さきことでもないがしろにせず、きちんとした対応を気掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り、できることを、できる時に、一緒に取り組んでいる。また、選ぶ選択肢の提供、自己選択し自立した生活が営めるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共通認識を持てるように、家族や入居者との関係づくりに努めている。(面会時の交流の活用)また、継続したつながり・家族と本人のつながりを築き図る為、毎月発行のホーム新聞に掲載。家族へ発送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた際は、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。(居室・フロア選んで頂き、時間を感じさせないように配慮)	日々の会話の中で家族構成や生活歴などを把握し、記録している。昔の学友とテレビ電話を通して交流して頂いたり、書ける範囲で年賀状を書いて頂き、家族に送っている。「アップルパイが食べたい」との事で一緒に買いに行かれたり、馴染みのパン屋などにお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流が持てるような場を作ったり、間に入って支援している。また共同作業での交流は大切にしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長引き退所になられる方に関し、電話やメールなどで近況をお尋ねしている。ご家族は退院後も来夢の入所を望まれる方が多い		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	耳を傾け、様子を伺い、時に一緒にと背中を押し、本人のペースで自立できるよう支援に努めている。無理強いはいしない。	4人勤務の日を増やし、真の願いを引き出せるように努めている。「子供が好きだったカレーを作りたい」「散歩や買い物に行きたい」「アップルパイを食べたい」等の願いを叶えている。ご本人の日々の行動を家族に報告し、その時々真意を理解するように努めている。	入居者個々の「想いを察する」「真意を理解する」ために、職員間の情報交換を続けているが、今後も更に全職員が真意を感じ取れるように努めていく予定である。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や家族の情報を始め、入居後の生活の様子やクセ等の把握に努め、職員間で共有・受容に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基礎的な身体的な部分と関わりの中で見つける心にも目を向け、日々観察をしている。情報共有・現状把握に対してチームで実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員によって、ケアの考え方や捉え方に若干の誤差があるが、会議やカンファレンスを通じて意見交流を行い、統一したケアができるように努めている。また日々の気づき等は記録や申し送りを通じて確認し合えるようチームで実践している。	入居者の要望や職員の意見も踏まえて計画を作成している。お盆拭きや茶碗拭き、洗濯物干しや洗濯物たたみ等、ご自分でできる事をして頂いている。24時間全般のケア内容を盛り込み、「できそうなこと」を検討し、個別の目標も記入している。	今後は更に職員全員でプランを共有し、ケア内容の変更時は、ご本人と家族、職員全員の同意を得て実施すると共に、日々の記録を充実させ、日課の行動だけでなく、プランに基づく記録(成果・気づきなど)を増やしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の行動だけではなく、職員の気づきや利用者様の様子も記録することで、職員同士の情報共有に繋がると現在指導中		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに拘る職員の方が多い。本人の状況を見て、柔軟なサービスがとれるよう指導している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を民生委員さん等と話ながら共同することができれば・・と思う		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は信頼が厚く、ご家族、利用者様とも満足されている。他科を受診される場合はいくつか病院をご紹介させて頂き選んで頂いている。	往診(月2回)や訪問看護(毎週)を受けている。ホームの准看護師にも相談でき、24時間体制で協力医療機関と連携が取れている。他の協力医との連携も図り、家族と受診結果を共有している。職員の観察力も深くなり、早期対応に繋げており、副作用などの相談も医師にできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションによる健康確認の際、近況等を報告。個別に助言を頂くこともある。(受診等)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、早期退院の目指し、MSWとの連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態があまり良くなく、主治医より終末期との話があった時点で、ご家族にお話している。	契約時に方針を説明し、家族等の意向を伺っている。28年度に看取りケアが行われ、夜中に医師も駆けつけて下さり、夜勤の職員と共に、管理者、ホームの准看護師、家族も一緒にエンゼルケアが行われた。長く勤務する職員も多く、緊急対応等の研修を受講しているが、今後も勉強会を行い、看取りケアの尊さを共有していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている、定期的な訓練は実施されていない様子		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災、地震、水害マニュアルを作成している。しかし地域住民と協力しての防災訓練は実施できていない。	ホームは1階にあり、年1回は入居者・消防署員・消防団と一緒に避難訓練が行われている。隣接する他事業所との協力関係もあり、合同訓練に向けた話し合いを続けている。ハザードマップ上、地滑り危険区域であるが、補修工事は完了し、地域の避難場所も確認している。	30年度は自主訓練も再開する予定であり、訓練時の記録(反省内容等)の充実や災害に備えた食料品などの備蓄の検討も行う予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あまりできていない。「ちがう」「だめ」等の否定語が聞かれることもある。職員同士で注意することが必要。	認知症になられても、人生の先輩として対応するように心がけている。言葉遣いに配慮しているが、語尾が強くなったり、大きな声になる時もあり、職員自身が気づき、反省する機会も増えている。ご本人の意思決定も大切にしており、質問形式で声かけし、ご本人に選んで頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促す配慮はできている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、ご利用者様優先であることが第一であるが、それを理解できない職員がいる。グループホームとは？介護とは？から指導が必要		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員はご利用者と一緒にお買い物に出かけ洋服や下着を買う等、その人らしい身だしなみができるよう支援をしている。また、髪型に関しても同様である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様、一人ひとりが得意とすることをされ職員と共同し食事作りから後片付けまで実施できている。味見専門の利用者様もおられる	昼と夜はホームで調理し、朝食は宅配を利用する。入居者も買い物や“もやしの根切り”やお盆拭き、包丁でじゃがいもの皮むき等をして下さり、職員の庭で採れたツワの皮むきもして下さる。干し柿作りも楽しまれ、柿の揉み方等のアドバイスを下さっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量が減少している方には嗜好品を取り入れながら、ご家族と相談し支援を実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、毎晩の義歯洗浄剤を使用し口腔内の清潔を心がけている。必要に応じて歯科往診や歯科衛生士による口腔ケアの手配等を実施している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や行動をみて排泄誘導実施し失禁回数が減ってきている。	排泄チェック表を付けており、布の下着(パッド)を着用し、排泄が自立している方もおられる。リビングからトイレまで距離があり、排泄間隔に応じて誘導する方もおられ、失禁は減っている。おむつを使用する方も、トイレに座って頂き、少しでも座位で排泄ができるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト等の乳製品をおやつに取り入れ予防をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	実施できている。入浴を拒否されるご利用者様はいらっしゃらない	入浴日を固定せず、希望に応じて入浴されており、デイの大きな湯船も利用できる。お風呂好きな方が多く、湯船に浸かり、職員と会話をされたり、菖蒲湯も楽しまれている。シャワー浴を希望する方は、足浴をしながら保温に努めている。できる範囲は洗って頂き、同性介助も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご家族のお写真や、その人が自宅で使用していたものがありその人らしい個室になっている。寝具も持ち込まれている方もおり、気持ちよく安心して過ごされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容がわかるように、ファイルにまとめてある。誤薬がないよう二重確認を実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩支援、買い物支援、塗り絵等を提供し、個人個人で楽しまれている。特に塗り絵に関しては満足感を感じておられる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿って外出支援はできている。しかしながら、全員で外出することはなかなか難しい。	天気の良い日は外の庭でお茶会を楽しまれ、歌も聞かれている。毎月の外出(花見・パルシー・平戸の足湯)以外に、木曜と日曜はデイがお休みのため、大型車でドライブしたり、お弁当を持って公園に出かけている。近所のスーパーで商品を選んで頂いたり、水族館見学も楽しまれた。今後も個別の外出を増やしていく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望されるご利用者様はいらっしゃらない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昔の学友とテレビ電話を通して交流して頂いている。またご家族様にご利用者様よりカードを作成して頂き、返信用のはがきを準備し送付し、お返事を頂いている。ご家族もご利用者様も大変喜ばれている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビをつけっぱなしにするのではなく、音楽をかけたりし気分転換を促している。またレースのカーテンも時間帯で全部開け光を取り入れるようにしている	窓も多く、LD電球に変えた事もあり、リビングは明るい。職員が自宅から持参した季節の花を入居者の方が活けて下さる。加湿器を活用し、洗濯物を干して加湿に努めると共に、窓を開けて換気をしている。ソファーに座って団欒し、窓から青空を眺める事もできている。今後はテーブルといすの高さ調整をする予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファには、仲の良い人同士で座られることが多く会話が弾まれる。お互いに見守りもされている様子		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時のご本人が安心されるものはなんでも持ち込んで頂いていいことをお伝えしている。写真や筆筒等を持ち込まれている	赤いリボンを居室の入口に飾る事で、迷わず居室に戻れる方もおられる。筆筒や手鏡、遺影などと共に、写真や人形等も飾られている。居室のレイアウトを家族と一緒にされたり、ご自分で筆筒の整理整頓をされる方もおられる。今後はカーテンを新調していきたいと考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の配置が複雑なので、混乱されないよう顔写真を表札代わりにしている。		